



オクトレオスキャン検査説明書 兼 予約票

ご氏名

様

検査日 平成 年 月 日 曜日 時 分

検査は2日間（当日、翌日）にわたって行われます。

※受付窓口が大変込み合う場合があります。ご来院の際は検査予約時間の30分前を目安にお越しください。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。

★検査時刻に遅れる場合は早めに核医学検査室まで（TEL:03-5273-6881）ご連絡下さい。

★受注生産のお薬を使う検査です。キャンセルされる場合は、できるだけ早くご連絡下さい。当日のキャンセルの場合、費用をご負担いただく場合がございます。

受診前の注意点

1. 検査前後の食事、飲水に制限はありません。
2. 検査前後は、十分水分を摂取して下さい。

当日の検査の手順

1. 放射性薬剤を静脈注射します。
2. 注射4—6時間後に撮影をします。SPECT/CTという機械で、全身の平面画像、横断画像とCT画像を撮影します。撮影時間は1時間程度です。これで一日目の検査は終了となります。
3. 余分なお薬の尿排泄を促進すると、被曝が減り、（バックグラウンドの低い）より良好な画像を撮影できます。そのため、**水分を多めに摂取してください**。便秘している場合は、下剤を服用していただき、二日目に来院される前に排便していただくことが望ましいです。

翌日の検査の手順

翌日、注射24時間後の撮影を同様に1時間くらいかけて行います。画像を確認して終了です。検査終了後、規定の検査料を病院の会計でお支払いください。

画像診断報告書

通常、検査終了翌日に主治医宛に、画像診断報告書と画像の入ったCD-Rを発送します。（患者さんご自身が主治医用とは別に報告書や画像CD-Rを希望される場合は、別途手数料をいただきます）

放射線被曝と安全性について

1. オクトレオスキャンの一回検査あたりの全身の実効線量は13.0 mSv/111MBqです。これはCT検査などと同等と考えられ、健康被害が想定される線量ではありません。（参考 FDG-PET/CTの全身の実効線量は10-15.0 mSv/370MBq）

2. 本検査は注射する薬物の量が非常に少なく、アレルギー反応などの合併症や重篤な副作用はまずありません。注射時の熱感などもなく、非常に安全性の高い検査です。

治療中の患者さんの場合

サンドスタチンなどソマトスタチン受容体に作用する薬物による治療を受けている場合は、本検査への影響を最小限にするため、検査前に一定期間の休薬が望ましいとされています。体内のソマトスタチン受容体の状態を正しく診断するには、治療薬の作用が消えた状態が理想と考えられるからです。長時間作用型の薬剤の場合、投与から3～4週間程度時間を空けて検査するのがよいとされています。病状にもよりますので、主治医とご相談ください。

妊娠の可能性のある場合、授乳している場合、乳児や幼児と接する場合

1. 妊娠の可能性のある場合は検査が出来ません。
2. 乳児や幼児と密に接する場合（抱っこや添い寝）、体から出る放射線で乳児や幼児は被曝することになります。そのため、被曝を最小限にするという意味で、密に接するのは検査後1日位待っていただくのが望ましいと考えられます。授乳している場合は、母乳には注射したお薬はごくわずかしか出てきませんが、母乳は検査前に搾乳したものが望ましいと考えられます。

オクトレオスキヤンの説明

オクトレオスキヤンは、ソマトスタチン受容体の有無を調べる画像検査です。神経内分泌腫瘍（NETと略されます）は、増殖（増大）や転移する悪性腫瘍の特徴に加え、ホルモンを生産したり、ホルモンに感受性を持つなどの特徴があります。多くの神経内分泌腫瘍は消化管ホルモンの一つであるソマトスタチンに感受性がある（受容体がある）ことから、ソマトスタチン類似物質が治療薬として使われています。（サンドスタチン®など）オクトレオスキヤン（ソマトスタチン受容体シンチグラフィ、またはSRS）は、ソマトスタチン類似体に放射性物質を付けた薬剤で、ソマトスタチン受容体に結合し、受容体の分布を画像化する検査であり、この特徴を持つ神経内分泌腫瘍を描出することができます。オクトレオスキヤンは、神経内分泌腫瘍の検出力が高いことから、治療前の病巣診断、転移・再発診断などに使われます。またソマトスタチン類似薬による治療の適応判定にも用いられています。

以上、ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

問い合わせ先、予約受付

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
直通：TEL: 03-5273-6881 放射線核医学科予約受付
FAX: 03-5273-5251
代表：TEL: 03-3202-7181 内線 2390